西東京三田会

－News Letter 30－　（2023.10.1）

西東京三田会ホームページ　http://nishitokyo-mitakai.net/

巻頭対談

塾高野球部が教えてくれた高校野球の在り方

「記録的な猛暑」とか「真夏日日数、連日の更新」といった見出しが毎日のように紙面に踊った今夏でした。そうした今夏の列島を更に暑く、そして興奮の渦に私達を巻き込んでくれたのが塾高（慶應義塾高等学校）の甲子園制覇でした。

第 105 回全国高等学校野球選手権記念大会決勝戦が 8 月 23 日阪神甲子園球場にて行われ、前年優勝校で歴代 7 校目の連覇を目指す仙台育英高校と慶應義塾高等学校との間で熱闘が繰り広げられ、慶應 8 － 2 仙台育英で塾高が 107 年ぶり 2 度目の優勝を果たしました。因みに 107 年前の全国制覇は 1916 年に豊中グランドで行われ（参加校 12 校）、大阪府立市岡中学に勝利したもので、その 4 年後の 1920 年の第 6 回大会では決勝戦まで勝ち進んだものの、関西学院中学に 17 対 0 で敗退し、準優勝に終わりました。

皆様ご存知の方も多いと存じますが、塾高野球部は夏の甲子園大会に今大会を含め 19 回、そして選抜大会に 10 回出場しています。戦前には普通部として、慶應商工（一時的に慶應二）としても出場しております。日吉キャンパス移転前は東京代表としての出場です。夏の甲子園大会には第 101 回大会（2018 年）以来となりますが、選抜大会には今春（第 95 回）出場を果たし、第 1 回戦に今回決勝戦で対戦した仙台育英高校に延長 10 回、タイブレークの末 1 対 2 で惜敗している宿敵だったと言えます。

西東京三田会は塾員の親睦団体であり、決して塾高の OB 会ではありません。塾高 OB は会員の 5～6%に過ぎないものですが、今夏の塾高の全国制覇には私達は塾員として、その悦びを心から分かち合うことが出来たと思います。OB ではなくても球場に足を運んだ方もいらしたかと思いますし、テレビ放送に釘付けになっていた方々も多かったことと思います。そして仕事や所用の最中、小さな声で塾歌を口ずさんだ方もいらした

ことと思います。

今回の NL では、今夏の塾高の活躍を振り返りながら、塾高野球部の強さを私達なりに分析してみたいと思います。野球の技術や素養といったことだけではなく、義塾野球の本質的な考えにも触れることが出来るもしれません。単に「塾高優勝おめでとう特集」としての紙面構成ではなく、地域三田会である西東京三田会として、塾高野球部、そして野球に繋がる義塾スピリットについて考えてみたいと思うものです。

今回の塾高野球部の全国制覇の特集に際し、慶應義塾高校の OB でいらっしゃる佐藤貢一さん（S48 経・塾高 44）と NL の編集委員であり都立高校（武蔵）時代野球部に在席された嘗ての野球小僧でらっしゃる行田健二さん（H4 経）に対談して頂き、その内容を掲載させて頂きます。

～～～

【佐藤さん】今夏の大会は、結局球場での観戦は県大会の準決勝だけでしたが、それ以外の試合は県大会、甲子園を含めTVK、NHKで放映された塾高の試合は総て観戦しました。

【編集委員】その後の県大会決勝ですが、ライバルの横浜高校に8回終了時点で2点差を付けられていました。そして9回表に逆転3ランホームランが飛び出し、逆転勝ちを掴ぎ取ったわけでした。まさに徳俵に足が掛かってから、「うっちゃり」での勝利で、甲子園への切符を手にしたわけですね。

【行田さん】長い県大会を勝ち抜き、更に甲子園で8月の炎天下で勝ち進むことは、想像すら難しい「凄さ」を感じてしまいます。

【編集委員】そう考えると、今夏は神奈川県大会の時から波乱含みな大会だった訳ですね。

【佐藤さん】そうなんです。県大会準決勝で東海大相模をコールドで撃破した後、友人達と中華街で祝宴を行いました。実は、私自身記憶が定かではないのですが、　後から友人から聞いた処、私が「全国大会制覇だ！！」と大言壮語したということなのです。
　甲子園に出場し、そしてあれよあれよという間に全国制覇。同期の誰もが大興奮となりました。まさか中華街での発言が実現するとは夢にも思いませんでした。そして107年ぶりの優勝が、存命中に実現できるとは・・・・。本当に嬉しい限りです。

塾高野球の強さの秘密

【編集委員】さて、佐藤さんの塾高時代には野球部は強かったのですか。野球部に在籍したご友人はいらっしゃいますか。

【佐藤さん】実は、今回一緒に応援に行った友人のうちの1人は、高3の時同じクラスで野球部員でした。この代は結構強くて神奈川県大会で準決勝まで進みました。結局準決勝で武相高校に敗れてしまいましたが、武相高校はそのまま勝ち進み甲子園にまで行きました。

【編集委員】確かに、手許の資料では佐藤さんの3年次は準決勝で3対7で惜敗されてますね。因みにその前年は県大会の初戦で東海大相模に敗れていますが、1年の時にはやはり準決勝まで進み横商に2対4で敗れています。いずれも強豪校との対戦ですね。

【編集委員】塾高は今春の選抜大会にも出場しましたが、初戦で仙台育英に敗れてしまいました。また、2018年には春・夏どちらも甲子園出場を果たしましたが、その後些か低迷期があったように感じます。そして今夏、佐藤さんご自身も驚かれているような甲子園での全国制覇を勝ち取りました。塾高を優勝まで導いた原動力は何だったとお考えになりますか。

【佐藤さん】私は、一言で謂って、「森林監督の指導力」と「チームワーク」の勝利だと思います。

【行田さん】私も森林監督の指導力が優勝への最大のポイントだと思います。私は高校球児であった頃、「Winning Baseball」という書籍をバイブルのように扱っていましたが、今般森林監督が執筆された「Thinking Baseball」を拝読させて頂き驚いたことが随所にありました。森林監督が同書を書かれたのは2020年のことですが、甲子園での優勝後に書かれたと思ってしまう個所が何度も出てきます。即ち、森林監督は、塾高を「日本一を狙えるレベル」に既に育ててきたと思うのです。

【編集委員】なるほど。私は些か理解不足かもしれませんが、前任の上田監督、そして現在の森林監督が時間を掛けて築き上げてきた「エンジョイ・ベースボール」が開花したと受け止めています。野球を愉しんでいる姿が私達素人にも伝わってくるようです。その中に、「強力な粘り強さ」も生まれている・・・これなら最強かもしれません。

【佐藤さん】確かに今夏の大会でも「粘り強さ」が目を引きました。県大会の決勝もそうですし、甲子園では3回戦の広陵高校との試合で粘り勝ち（延長10回タイブレークの末6対3で勝利）したことで、チームに勢いが付いたと感じました。

チーム力の勝利

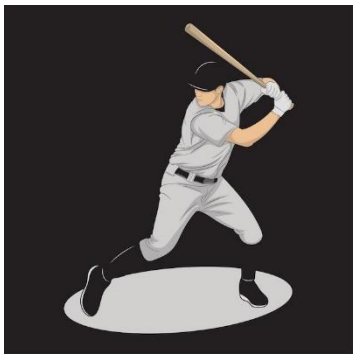
【編集委員】別な視方をしてみますと、甲子園大会終了後に組成された第31回WBSC U18大会（9月10日まで台湾で開催）で、優勝チームの塾高からは僅か1名しか選出されていませんでした。優勝チームであればもう少し多くの選手が選ばれてもおかしくないと思うのですが、そうなりません。この事実が意味することは、塾高は個としての選手の能力よりも、チーム・組織としての能力が極めて高いのではないかと思ってしまいます。

【行田さん】エンジョイ・ベースボールの原点は、「好きだからやっている、だから苦しいことでも頑張れる」という姿勢だと思います。そして、100人以上の部員全員がそれぞれの役割を担っていて、チームに貢献していくという姿勢が溢れていると思います。即ち、「組織力」に最大の強さがあり、塾高というチームとして闘っていることを意味していると思います。

【編集委員】なるほど、確かにU18チームは結果的に優勝することが出来ましたが、私達が観ている感じは「塾高野球とはなんとなく違うな・・」という思いでした。塾高が作り上げた組織野球、チーム力とは異なる次元での強さだったのかもしれませんね。

【行田さん】森林監督の著書「Thinking Baseball」の中に、大学野球部でも活躍された選手の塾

高時代のエピソードなども紹介されてますが、都立高出身の私は、自分の経験を重ね合わせ、選手個人も、そして塾高というチームの組織力も、自分とは次元が違うと思わざるを得ませんでした。



【編集委員】佐藤さんの塾高時代を振り返って頂き、当時の野球部、若しくは野球部のご友人に関する思い出はありますか。

【佐藤さん】そうですね・・・、当時の塾高は高 3 の 7 月に修学旅行がありました。2 週間程掛けて北海道を回るものでした。然し、当然ながら野球部員は県大会直前なので、修学旅行には参加できないわけです。そこで旅先からクラスの皆で激励の色紙を送ったことを覚えています。

【編集委員】その激励の色紙の効果が有ったのでしょうね、その年の県大会では準決勝まで勝ち進みましたね。
　塾高が優勝して話題になったことのひとつに、選手達の頭髪のスタイルがありました。決して「見た目」には拘らないという塾高の精神の現れだと思います。選手達も教室に居る時は、他の生徒達と一緒ですし、生徒達も野球部員を特別扱いせず、「仲間」として常に接していることが判ります。

【行田さん】その「特別扱いをしない」という考えは、生徒の中だけではなく、野球部に通底している考えではないでしょうか。森林監督は、「監督と選手の間に上下関係はなく、たまたま自分が早く生まれただけであり、一生懸命頑張っているのは選手で、私の指示通りにやっていれば甲子園で優勝できるとは全く思わないし、むしろ選手に『甲子園に連れていってくれ』といつも言っている」と仰ってます。そうした考えも「エンジョイ・ベースボール」の精神だと思います。そして、その意味するところは、より高いレベルの野球を楽しもう、その高いレベルに到達するためには、自ら進んで取り組む意識が重要であり、その方が最終的に高いレベルに行きつけるということだと思います。

校風から醸成された塾高野球

【編集委員】そろそろ今回の対談を纏めさせて頂きたいのですが、先ず佐藤さん、塾高の先輩として現役の生徒達にお伝えしたいことがあれば是非お願いします。
忌憚のないコメントをお願いします。

【佐藤さん】私が在籍していた当時、塾高は 1 学年 700 名を超える大所帯の男子校でした。クラスは A 組から Q 組まであり、普通部から 250 名、中等部から 180 名、外部から 300 名、これが三位一体となって独特の校風を作り上げていました。マンモス高で、且つ男子校である故に、「緩さ」と或る種の「いい加減さ」があり、私的にはそれが心地良かったと思っています。
　ともかく個性豊かでいろいろな「奴」が居るわけです。そうしたいろんな「奴」と付き合って、大いに塾高生活を謳歌すれば良いと思います。もう一言付け加えれば、「階段を踏み外さない程度

に」謳歌して下さい。

【編集委員】嘗ての「野球小僧」であった行田さん、塾高野球部を外から見られた感想をお願いします。

【行田さん】高校野球の在り方を考える上で、根源的な問いは「高校野球は誰のものか」というものです。その答えは「選手のもの」であると森林監督は仰っています。その考えが塾高野球部のベースになっているように感じました。そして、私自身野球は高校時代までで終え、大学では野球部に入りませんでしたが、その点が森林監督と同じで、とても親近感を覚えます。そして、WBC の栗山監督と同じように、自身の野球キャリアより高いと思われる選手、チームを、自分にとっても未知なる高い目標に導く困難さを克服されたことに敬意を表するものです。

【編集委員】本日は大変お忙しい中、ＮＬのインタビューにご協力頂き有難うございました。塾高のこと、そして塾高野球部のことをとても良く理解出来た思いです。塾高の優勝を違った視座から考えることが出来ましたことをご両名に御礼いたします。インタビューはこれにて終了です。お話足りないことは、場所を替えて、一杯飲みながら大いにお話下さい。

インタビューを終えて・・

当会ニュースレターの発行タイミングから、どうしても本企画を NL30 に間に合わせる必要があり、急遽このようなインタビューを企画し、なんとか校了に間に合わせることが出来ました。ご協力頂いた塾高 OB の佐藤さん、そして編集委員から行田さんに参画頂き、貴重なお話を沢山伺うことが出来ました。本当に有難うございます。

報道に依りますと、俄か高校野球ファン、俄か塾高ファンが激増したとか。私もその一人かもしれませんが、それにしても甲子園で聞く「塾歌」は格別な思いが致しました。

行田さんがご説明下さいましたように、森林監督の指導力、そして人間力がチームに浸透した結果が今夏の大輪となったと思います。生憎、塾高も、そして良きライバルである仙台育英高校も、残念ながら秋季大会では振るわず、来春の選抜大会への出場が難しいとの報道を耳にしました。それも両校にとって、長い歴史の中に何度も繰り返される試練なのかもしれません。是非悔しさを糧に頑張って貰いたいと思います。そして、現役塾高生諸君には、佐藤さんからのエールにありましたように、大いに塾高生活を謳歌して頂きたいと思うものです。

開催されたサークル活動を紹介します

2023 年 7 月から 9 月に開催されたサークル活動等をご紹介いたします。
様々なサークル活動が復活し、さらに新しいサークルも誕生しています。

大いに愉しみ、少し反省した花火会

7 月 29 日午後 4 時、明らかに花火が打ち上げられる時刻には早過ぎる。加えて、集合場所は花火会場とは違う所沢駅改札であった。私達が向かおうとしているのは、「狭山市入間川七夕まつり納涼花火大会」であった。主催幹事は私事都合により急遽不参加となったが、私達 4 人は所沢駅に至近の中華料理店に向かうこととなる。花火見物の前に、然るべきエネルギーの補給という次第であった。

米国駐在中に日系銀行からの声掛けでミシガン湖の花火会に参加させて頂いたが、画像で見る日本の花火とは規模がまるで違い、家庭の打ち上げ花火を多少大きくしたような花火が 10 分程湖面に咲いた程度のものであった。加えて、米国は公園等の public access での飲酒は禁じられているので、不承不承終了後場所を移動して飲み直した経験がある。そうした点から、事前の飲食は極めて理に適っていると自己判断するものであった。然し、予想していたとは言え、飲み始まるとなかなか切り上げるのが難しい面々であり、「会場に行かず、このままでも良いのでは・・。」との意見が出る始末であった。それでも毅然と 4 人は席を立ち、電車で 4 駅先の狭山市駅へ向かう。

狭山市駅に到着しホームに降り立った瞬間から、人の波に飲み込まれることとなる。漸く改札を抜けるが、駅周辺は見物客で溢れている。入間川の河原を目指すこととなるが、1.5 ㌔の七夕通り商店街は想像以上の混雑で、昨年ソウルで起こった梨泰院雑踏事故が頭に過ったのは私だけではなかったと思う。通りの両側には出店が連なり、混雑の中を進む我々は、他のメンバーと逸れないように進むのが精一杯の状況。30 分程人並に揉まれて歩き、打ち上げ会場の河原に近付いた時、不意に私の頭に浮かんだことは、「この先、トイレは在るのだろうか」という

ものであった。所沢で強か液体を注入した私達は、その後に必ず遣ってくる事態を軽々に考えていた。取り敢えず先手を打つべく、河原に行く前にトイレに行っておく旨伝え、その後は携帯で連絡を取り合うこととして分かれた。然し、その時見送った彼等の後ろ姿が、最後のものとなり、数万人規模の人混みの中で相見えることは無かった。その後別行動となったものの、帰路の更なる混雑を呼びかける注意喚起を聞きながら、私は無念にも駅へ戻る選択を取らざるを得ず、高台に位置する駅周辺から花火の音と、打ち上がる大輪を見遣るのみであった。

再会出来なかった仲間からは、「久しぶりに見た凄い光景」、「皆さんについていくのに必死でしたが、貴重な経験でした」との感想を伺った。当会としては初めてのイベントであったが、大勢の仲間と連れ立っての参加は、見物場所を確保の上で集合する等が必須であり、事前の飲酒は抑えることが肝要だと痛感するものであった。次年度以降は「一工夫」した上で、皆さんと愉しみたいと思うものである。

（大内　俊　S57 経院）

ブルーベリーを摘む会を開催しました

7 月 30 日(日)「ブルーベリーを摘む会」が例年同様、東久留米三田会元会長の野崎陽一さん所有の農園で開催され家族連れを含む 12 組 32 名の参加者が思い思いにブルーベリー摘みを楽しんだ。野崎さんの農園は一般向けにも利用案内を出しているが、毎年一般向け予約開始日より早期に日程決めの配慮を頂いていることは感謝である。今年は特に暑い日が続き一旦決めた参加をキャンセルされた方もおられたが、それだけにブルーベリーは粒ぞろいの絶品だった。近年猛暑日が増えてきているがせめてイベント開催日は暑さが和らいでくれないかと思っている。

（宮本　敬一　S46 工）

我家の heartwarming memory

今夏の東京の猛暑は記録に残るものだったと思います。当日朝の予報では、午後には 37 度近くなるまで気温が上昇するとのこと。それを耳にしただけで既に眩暈がしてきますが、午後の出発に向けて一段ギアを挙げて準備しなくてはなりません。数年前に書かせて頂きましたが、米国中西部で生まれ、育った私達姉妹にとって、夏の恒例行事の一つが「ブルーベリー摘み」でした。ブルーベリー農園で、摘んだ実を一寸口にしながら、「もう帰るから、そろそろ終わりにするよ」という父の言葉が聞こえなかったフリをしながら、黙々とブルーベリーを摘んでいた記憶が我家の heartwarming memory です。そうした私達にとり、三田会主催のブルーベリー摘みに参加させて頂くことは、当時の気持ちを蘇らせ、そして更なる思い出作りを提供して下さるイベントとなっています。

その我家の夏のイベントに、今夏から甥（2 歳半）がデビューすることになりました。猛暑の中でのイベントであることから、母や姉は心配していましたが、本人は心配をよそに朝から張り切っています。そして野崎さんの農園に到着する頃には、興奮もマックスとなり、ブルーベリー畑に移動すると、姉の注意に従い、恐る恐るブルーベリーを摘み始めます。小さな実を口に含むとその美味しさが全身を巡ったように、時間を忘れてブルーベリーをバケツ一杯に採っています。その光景は、恐らく私達が幼少の時の所作と同じだったことと思います。

ブルーベリーの木々の下では、暑さも和らいだように感じ、とても心地良い時間が流れます。防鳥ネットの中に何処からか鳥が入り込んでいました。この鳥にとって、置かれた状況は「天国なのか地獄なのか」と考えていた処、野崎さんに依ると、「鳥はとても頭が良く、ネットの裂け目を理解している」由。きっとその鳥も存分にブルーベリーを啄んだことと思います。

沢山のブルーベリーを収穫できた満足感と、我家にニューフェースが誕生した悦びで、とても充実した我家の夏の思い出の一日となりました。私はというと、冷凍保存しているブルーベリーを夜な夜な数粒口に含み、愉しかった一日を思い出しています。（大内 daughter）

キリンビール横浜工場見学と食事会

8 月 2 日水曜日、生麦駅の改札口に 14 名が集まったが、誰も遅れる方がでず、大人の工場見学を楽しみにしていた。

夏の暑い日で、日陰を選びながら歩き、キリンビール横浜工場の見学時間に少し早く着いた。

ビール工場の見学コースは楽しい趣向があり、とても楽しめる工場見学をした後、待ちに待ったビールの試飲会が始まった。やっぱり美味しいと、あっちこっちから聞こえてくる。

その後、場内にあるイタリア料理を、食べながらのビヤホールで、昼間から美味しいビールを何杯も飲みました。

大人の工場見学会はグルメ会では、初めてであったが楽しい 1 日であった。

（小笠原　寿男　S57 経）

キリンビール横浜工場見学会に参加して

数日前からこの日のために体調を整え、前日は休肝日を順守し迎えた、「キリンビール横浜工場見学会」。当日は、早朝の目覚めもスッキリと素晴らしく、「できたての生ビール」に向けて、大きな期待を胸に出発！

集合場所の生麦駅から、お集まりの西東京三田会メンバーの皆様と、日陰のない炎天下を必死に歩き 15 分、ビール工場に到着。入場料 500 円を支払うと、制服を着たアテンドの女性によるツアーがスタートした。この日のプログラムは、工場見学 65 分、テイスティング 25 分。「キリン一番搾り生ビール」のこだわりやおいしさをたっぷり体感できる、「見て、知って、味わう」がコンセプトのツアーだった。

キリンビールの歴史の映像解説から始まり、大麦畑やホップ畑の視覚や聴覚に訴える動画を見ながら、実際にどのような環境でビールの素材が育てられているのかを知ったうえで、実際の素材である麦芽の試食やホップの香りを体験した。麦芽は香ばしくて意外にも食べやすく、ホップは優しい爽やかな香りがした。続いて、巨大なビール釜が並ぶエリアで、ビールの仕込みの工程を学び、アルコールゼロの麦汁のテイスティング。こちらは甘くてまろやかな味わいが印象的だったが、これがこの後どうやって飲みなれたビールになるのか、まだ想像がつかなかった。

その後、ツアーは、発酵の工程へ。麦汁に酵母を加えて行う発酵の仕組みや、調和のとれた風味と香りに仕上げるための貯蔵について、特殊な映像技術を体験しながら学んだ。

そして、出来上がったビールが容器に詰められ、パッケージングされる工程を見学。目の前で、数百、いや数千の缶ビールがベルトコンベヤーで流され製品化されていく様子は壮観だった。

キリンビールの展示で一番印象的だったのは、製造から販売までの過程で関わる社員や関係者、スタッフの生の声を紹介していた点である。本当に様々な人が、それぞれのポジションでプライドをもちビール作りに関わっていることを知り、ものづくりに熱いパッションを感じ嬉しくなった。

さて、そんな工場見学のラストを飾るのは、お待ちかね のテイスティングタイム。おしい生ビールを提供するための知識や技術を習得した「ブルワリードラフトマスター」が登場し、ビールサーバーから生ビールをどんどん注いで、参加者へこだわりの一杯を手渡してくれた。まろやかな口当たり、爽やかなホップの香りとすっきりとした喉ごしは、言うことなしで最高！

見学中は真面目に真剣に学んでいた三田会メンバーも、生まれたての生ビールを片手に、「うまい！」と非常に幸せそうな表情。私もニヤニヤが止まらなかった。

続いて３種のビールのテイスティングの体験セミナーがスタート。それぞれの味や製法の違い、特徴やこだわりの点などがレクチャーされたのだが、目の前のビールに夢中になりすぎて話半分、となったのは私だけだったのだろうか。

見学会が終わる頃には、参加者はすっかり上機嫌。しっかりキリンビールのファンとなり工場を後にした。そして同施設内のおしゃれなレストランにて、飲み放題の会食。言うまでもなく、大盛り上がり。楽しい時間はあっという間に過ぎていった。

今回は参加者の誰も彼もが、おそらく大満足されたのではないだろうか。

企画し、幹事をしてくださった小笠原さん、原洋一さん、本当にありがとうございました。

（丑山　佐枝子　H18 政メ院）

麻雀会が開催されました

8 月 20 日（日）、本年 2 回目の麻雀会が開催されました。長かったコロナ禍での中断からようやく軌道が戻ってきたようです。

西東京三田会の麻雀会は会の当初から営々と続いています。幹事さんも何代か交代されてきていますが、それぞれの幹事さんが種々気を配ってくださっています。コロナの残像もまだ残っているなかで、最近は 2 卓が多かったのですが、過去には 4 卓も成立したこともありました。

麻雀はまだまだ、徹夜・たばこ・ギャンブルというような昔の悪いイメージも根強くあるようですが、最近、頭脳スポーツとして麻雀を打ち出したプロリーグ戦「M リーグ」なるものが 6 年目に入り、子供らにも広がりを見せ、負のイメージも払拭される方向にあるようです。西東京三田会の麻雀会は当初からギャンブル性はいっさい排除されていて健康マージャンそのものです。場所は、西東京郵便局の北側スグの「P ジャン」という雀荘ですが、貸し切りとはいかず他のお客様の煙害は多少残っているかもしれません（空気清浄機は供えられています）。

競技は、東南回しまたは時間制限で各卓 3 回実施します。各回組み合わせはくじ引きで決め、3 回のトータルの点数で各回の優勝などを決め、また年の最終回には年間賞などもつけます。

今回の第 2 回目の麻雀会は、待機人無しの 3 組成立し、参加者は伊勢尚一、牛島康朗、栗原幸雄、佐藤貢一、添田由夫、高梨勇一、原護、原洋一、樋口明朗、堀進、横田正満、吉田正輝の 12 名。添田由夫氏は初参加、高梨・栗原・佐藤各氏は久しぶりでした。

優勝伊勢尚一、2 位横田正満、3 位堀進の各氏でした。

（樋口　明朗　S43 経）

国分寺散策の会に参加して

三田会通信を見て 8 月 27 日に樋口明朗さんが企画した第 1 回散策の会 “国分寺崖線地域を歩く”に興味を持ち参加しました。当日 9 時 30 分西国分寺駅集合で集まったのは 9 人。樋口さんから手作りの散策会資料「歴史遺跡と湧水せせらぎ散策を楽しもう」の小冊子（歩くコースの説明）が配られました。その資料を読んで楽しい散策になるとの期待が膨らみ、皆さんと張り切って西国分寺駅南口をスタートしました。

散策コースは「伝鎌倉街道―武蔵国分尼寺跡―史跡武蔵国分寺跡―お鷹の道遊歩道―現在の武蔵国分寺―真姿の池湧水群―お鷹の道遊歩道―国分寺駅」の 6km 程度の行程です。

まず初めに伝鎌倉街道沿いに歴史を感じさせる道を歩き、最初に行った史跡は武蔵国分尼寺跡です。武蔵国分尼寺は天平 13 年（741 年）に武蔵国分寺と共に建立された尼寺です。鎌倉時代末に僧房は全て焼失してしまい、大正 11 年以降の発掘調査で史跡に認定され、今に至っているのだそうです。今は礎石しか残っていませんが、礎石と僧房の絵が入った立札を見て、昔あった建物を想像しながらここで一休みです。水分補給をたっぷり摂った後、そこから 30 分程度先にある史跡武蔵国分寺跡へ。

史跡武蔵国分寺跡も尼寺と同様に礎石と僧房の絵入り立て札しか残っていませんが、広い草原の中にある数多くの立札を見ながら当時の僧房に想いを馳せました。

武蔵国分尼寺跡で記念写真

史跡武蔵国分寺の七重塔前

武蔵国分寺の立て札

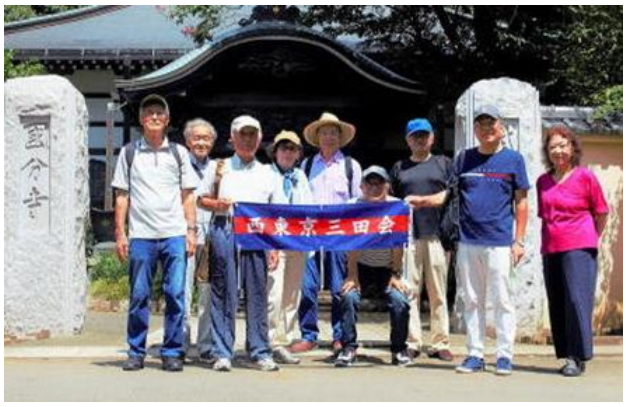
僧房の絵入り立札

史跡武蔵国分寺跡を回った後、蛍が住む小さなせせらぎを見ながら武蔵野の風情を感じさせるお鷹の道遊歩道を歩き、遊歩道沿いにある武蔵国分寺に到着。春の花が数多く植えられているお寺の庭を散策しましたが、春であればさぞ綺麗な草花が咲き誇っていたと少し残念な想いを感じつつ歴史を感じさせるお寺を拝観しました。その後、遊歩道から少し入った場所にある真姿の池湧水群の湧き水を見て清涼感を味わった後、国分寺駅まで歩きゴールしました。曇り空ながらも残暑が厳しく汗びっしょりとなりましたが、2 時間半のゆっくり歩きでのんびりとした散策を満喫しました。終了後、皆さんと国分寺駅近くの居酒屋さんで昼食を兼ねて打ち上げです。汗を一杯掻いた分だけ乾杯のビールが最高に美味しかった！　お代わりのビールにハイボールとちょっとした小宴会となり、皆さんとの会話も弾み和気藹々と楽しいひと時となりました。

これまで 1 人ウオーキングで国分寺駅近くにある殿ヶ谷戸公園や国分寺崖線沿いの遊歩道を黙々と歩き回っていましたが、気の置けない皆さんと会話しながらの散策は楽しく、これからもこのような企画に参加したいと思っています。企画してくれた樋口さんに感謝です。これからも宜しくお願いします。

ご参考までに、今回行った史跡武蔵国分寺跡は桜が咲き誇る時期が、今回は行かなかったですが、都立殿ヶ谷戸庭園は桜及び紅葉の時期が素晴らしく一見の価値があります。この時期に歩くのもお薦めです。

現存の武蔵国分寺で記念写真



昼居酒屋で乾杯です

（原　洋一　S46 法）

カラオケ会が開催されました

9 月 19 日 16 時から本年度 2 回目のカラオケ会が開催されました。その様子を報告します。
9 名が参加し、19 時までの 3 時間、間断絶なく歌い続け、演歌は勿論のこと懐かしいポップス、英語は言うに及ばず、スペイン語、中国語の歌まで飛び交いました。

全 43 曲を宮本さんが丁寧に記録してくださいましたので、掲載します。(歌手名は省きます)

なお参加者 9 人で相談の上、月 1 回開催を定例化することとし、
①毎月第 2 火曜日 16 時から 19 時まで
②次回以降は 10 月 10 日、11 月 14 日、12 月 12 日、1 月 9 日、2 月 13 日、3 月 12 日としました。

歌うのは嫌い、だけど聴くのは好きという方も大歓迎です。
決して無理強いはしませんので、思い切って様子見に参加してください。

開催予定を毎月末か月始に連絡する予定ですが、前もって希望される方のみにさせていただきます。連絡希望の方は西東京三田会事務局にお伝えください。

連絡先：西東京三田会事務局　nishitokyo.mitakai@gmail.com

なお本日の曲目は次の 43 曲でした。（プロ歌手歌唱入り曲、アンコール再登場曲含む）
テネシーワルツ、遠い世界に、想い出迷子、いつか雨上がる、365 日の紙飛行機、狂った果実、網走番外地、思い出のサンフランシスコ、この木なんの木、待つわ、ふるさとへ帰りたいな、銀座の恋の物語（バーチャルデュエット）、ダイアナ、夜がくる、空港、デイドリームビリーバ、キエン・セラ、アイドルを探せ、信濃の国、残照、悲しい酒、北空港、通り雨、赤と黒のブルース(鶴田浩二歌唱)、風うた、赤と黒のブルース、兄弟船、高原列車は行く、月亮代表我的心（月は何でも知っている）、ユーアーマイデスティニー、ケ・サラ、栄冠は栄光に輝く、キエン・セラ（アンコール曲）、君からお行きよ、長崎の鐘、雪深深、好きになった人、赤いグラス、おゆき、あの素晴らしい愛をもう一度、傷だらけの人生、サライ、若き血

（皆川　雅紀　S49 政）

開催予定の活動をお知らせします

2023 年 10 月以降に開催予定のサークル活動やイベント等をお知らせいたします。
事前申し込み不要のイベントなどもありますので、ぜひお気軽に足をお運びください。

10 月 10 日（火）カラオケ会

月 1 回の定例開催のカラオケ会のご案内です。
歌うのは嫌い、だけど聴くのは好きという方も大歓迎です。
決して無理強いはしませんので、思い切って様子見に参加してください。

日時：10 月 10 日（火）16 時から 19 時まで
場所：スナック「JJ」
会費：3,000 円

参加希望の方は西東京三田会事務局にお伝えください。
連絡先：西東京三田会事務局　nishitokyo.mitakai@gmail.com

10 月 15 日（日）麻雀の会

定例の麻雀の会を開催します。
参加希望の方は幹事へご連絡ください。

日時：10 月 15 日（日）13 時から 17 時ころまで
場所：西東京郵便局北側の「P ジャン」

幹事：栗原幸雄、原護 090-8807-7508　hara.mamoru08414@gmail.com

10 月 15 日（日）連合三田会大会への参加

今年も連合三田会大会に参加します。
拠点ブースを設けます。
「西東京三田会」の幟旗を探してお立ち寄りください。
西東京三田会の仲間だけでなく、旧友に再会できるかもしれません。
みんなで歓談しましょう！

日時：10 月 15 日（日）
場所：日吉キャンパス

幹事：樋口明朗 090-1760-4523 ar-higuchi@jcom.home.ne.jp

10 月 16 日（月）～22 日（日）第 18 回写真・作品展

来る 10 月 16 日（月）午前 10 時から 22 日（日）午後 5 時まで、第１８回西東京三田会写真・作品展が柳沢公民館ロビーで開催されます。写真・絵画（水彩・油彩・アクリル等）・木彫・版画など多様な作品 30 件余りです。当三田会会員とその家族、協力いただいている小平三田会・杉並三田会・早稲田大学西東京稲門会の会員及び関係者の日頃の創作活動を見ていただきたくご案内致します。お待ち申し上げております。

当会の会員、天辻明氏の作品をご披露します。公民館で実際の作品をご覧下さい。

『夕映えの湿原』　アクリル　天辻明氏

『竹林の石仏』アクリル 天辻明氏

幹事：高橋信一　shin123@jcom.home.ne.jp

10 月 28 日（土）神宮野球応援会

慶應側外野席に集結して懇親、応援しましょう！
高校野球では塾高が優勝しましたが、大学野球部も絶好調で優勝を狙える状況です。
事前の参加表明は必要ありません。お子様連れも大歓迎です。
「西東京三田会」の掲示を目印にお集まりください。
当日、17 番入口前チケット売り場で各自一般外野席券を購入し、慶應側（三塁側）外野入場口前に 12 時に集合してください。

日時：10 月 28 日（土）12 時
場所：神宮球場 慶應側外野席入場口前

幹事：樋口明朗 090-1760-4823 ar-higuchi@jcom.home.he.jp

11 月 11 日（土）～12 日（日）西東京市民まつりに出店します

今回も西東京市民まつりに出店します。
市民まつり来場者に西東京三田会をアピールして新入会員を募集します。
ブース内はみなさんとの懇談の場所です。
お気軽にお立ち寄りください。
また、当日の展示物や催し物のアイデアも募集しています。
当日は寄贈いただいたおそろいのブルゾンを初披露する予定です。
店番の係はそれを着てみなさんをお待ちしています！

日時：11 月 11 日（土）10 時～16 時
　　11 月 12 日（日）9 時～15 時 30 分
場所：西東京いこいの森公園

幹事：西東京三田会 事務局 nishiyokyo.mitakai@gmail.com
　　西東京三田会 事務局 担当 横田均 070-4069-8946 yokokinhello@yahoo.co.jp

11 月 14 日（火）カラオケ会

月 1 回の定例開催のカラオケ会のご案内です。
歌うのは嫌い、だけど聴くのは好きという方も
大歓迎です。決して無理強いはしませんので、
思い切って様子見に参加してください。

日時：11 月 14 日（火）16 時から 19 時まで
場所：スナック「JJ」
会費：3,000 円

開催予定を毎月末か月始に連絡する予定ですが、前もって希望される方のみにさせてい
ただきます。連絡希望の方は西東京三田会事務局にお伝えください。
連絡先：西東京三田会事務局　nishitokyo.mitakai@gmail.com

11 月 28 日（火）第 3 回西東京慶早校友ゴルフ会

第 3 回西東京慶早校友ゴルフ会を開催します。
参加申込みの第一次締め切りは本日 10 月 1 日（日）となっております。
参加希望の方は幹事へご連絡ください。

日程：11 月 28 日（火）
場所：高坂カントリークラブ 岩殿コース
会費：4,000 円
プレイ費用：15,500 円（70 歳以上は利用税 1,100 円免除）

幹事：宝井繁夫　森茂樹　smah-mori@nifty.com

12 月 10 日（日）麻雀の会

定例の麻雀の会を開催します。2023 年最後の麻雀の会です。
参加希望の方は幹事へご連絡ください。

日時：12 月 10 日（日）13 時から 17 時ころまで
場所：西東京郵便局北側の「P ジャン」

幹事：栗原幸雄、原護 090-8807-7508 hara.mamoru08414@gmail.com

12 月 12 日（火）カラオケ会

今年最後のカラオケ会です。
師走の忙しさを忘れて一緒に楽しく歌いましょう！

日時：12 月 12 日（火）16 時から 19 時まで
場所：スナック「JJ」
会費：3,000 円

開催予定を毎月末か月始に連絡する予定ですが、前もって希望される方のみにさせていただきます。連絡希望の方は西東京三田会事務局にお伝えください。
連絡先：西東京三田会事務局 nishitokyo.mitakai@gmail.com

1 月 9 日（火）カラオケ会

新年最初のカラオケ会です。
まだまだお正月気分で楽しく集まりましょう！

日時：1 月 9 日（火）16 時から 19 時まで
場所：スナック「JJ」
会費：3,000 円

開催予定を毎月末か月始に連絡する予定ですが、前もって希望される方のみにさせていただきます。連絡希望の方は西東京三田会事務局にお伝えください。
連絡先：西東京三田会事務局 nishitokyo.mitakai@gmail.com

西東京三田会　会員インタビュー

第３回　産婦人科医で漢方薬の権威でもある村田高明さん

今回は、村田高明（S35 医）さんにお話をお聞きしました。
村田さんは昭和 10 年秋田県生まれ、県立秋田高校を卒業後、慶應義塾大学医学部に入学。昭和 35 年に同学部を卒業、インターン終了後、同産婦人科医局に入られ、その後の医局人事では国立東京第二病院、南カリフォルニア大学、国立埼玉病院産婦人科、国立栃木病院産婦人科部長として勤務、昭和 62 年東京都国保連・南多摩病院産婦人科医長、平成 4 年南多摩病院院長になられました。またその間、慶應義塾大学病院の産婦人科、先端科学研究所の兼任講師も務め、平成 5 年 1 月慶應義塾大学病院の漢方クリニックの開設に尽力されました。定年退職後、現在は新町クリニック（青梅市）とみなみ野レディースクリニック（八王子市）などで診療にあたっておられます。
また西東京三田会には平成 25 年まで副会長を務め、現在は顧問として当会に関わっておられます。なお西東京市移住した経緯は『西東京三田会創立 30 年記念誌』の会員の「こえ」に記載があります。

◎ 9 月 1 日（金）にお住まいのひばりが丘に近いカフェテリアでお話をお伺いしました。

（9 月 1 日村田さん近影）

編集委員
まず村田さんが産婦人科医局を選ばれたのは何故ですか。

村田さん
当時の教育制度では医学部を卒業後、1 年間のインターンとして全科を履修した後に国家試験を経て医師免許を取得する制度でした。医学部卒業後、インターンでは中野組合病院（現中野総合病院）で履修。そこで外科の医局を希望していたのですが、産婦人科研修中、慶應の先輩の産婦人科部長の佐伯正雄先生から「君は産婦人科だ」と決められてしまったのです。また、もし秋田

に帰り開業医をする場合は分娩も扱える医者になっていた方がいいかとも考えました。

編集委員
　その後、村田さんは慶應病院産婦人科の医局に入り、昭和 46 年から 2 年間アメリカに留学されています。そのような経歴の方が漢方というは不思議な感じがします。漢方と出会われたのはどのようなきっかけだったのでしょうか。

村田さん
　留学から帰って国立埼玉病院に勤務していたころ、診療に携わっていく中で、更年期症状、月経不順などのホルモン外来の患者さんの中には当時の西洋医学では十分な治療が出来ないことに悩んでいました。そんな中昭和 49 年、山手線の電車広告にある漢方薬の広告を見かけ、漢方薬もいいのではないかと考え、少しずつ研究をしながら患者さんに「薬局でこの漢方薬を買って飲んでください」という指示書を出していたのです。

編集委員
　その結果はどうだったのでしょうか。

村田さん
　最初のころは不妊症が多かったのですが、漢方薬を飲み始めた患者さんが妊娠するような例を結構見ました。もちろん他の治療やアドバイスもしていましたが、漢方薬が効いたという思いが強くなりました。

編集委員
　お話は昭和 40 年代後半から昭和 50 年代に掛けてだと思いますが、当時漢方薬を処方するお医者さんはおられたのですか。

村田さん
　まだ漢方薬の健康保険適用前ですので、薬局で漢方薬を買って飲んでくださいと指示する医師は周りにはいませんでした。でも患者さんの症状がよくなるのであれば西洋薬も漢方薬も関係ありません。それでも漢方薬の勉強を少しずつしていましたが、保険適用になって本格的に取り組むようになったのです。

編集委員
　そのような中で村田さんはどのような方法で漢方薬を学ばれたのですか。

村田さん
　独学で漢方に関する本を読み漁り、漢方メーカーの主催する若手の漢方研究会にも参加しました。そして昭和 55 年国立栃木病院に赴任してからは病院内で定期的な漢方の勉強会を始め、栃木県漢方研究会を立ち上げ、漢方診療の普及に努めました。また慶應病院でも漢方薬のニーズが増え、準備委員として病院側と何度も折衝を重ね、平成 2 年に漢方診療相談室が誕生させました。これにも需要が多く、病院内での評価も上がり、念願の漢方クリニックの開設となりました。

編集委員

村田さんは雑誌の執筆やテレビ出演も多く、一般患者さん向けの漢方解説も多いですよね。

（編集注：頂いた資料によると昭和 56 年から平成 25 年までテレビ出演 65 回、マスコミに記載記事が 879 件ありました。）

村田さん

それは漢方薬が効いた、効かないということだけでなく、漢方診療の効能を PR するためでした。漢方医学の考え方では五臓六腑という人間の営みである日常の生活のリズムも自律神経系が関わっていること。また漢方医学には環境医学としての側面があり、食養生、季節の違い、加齢の変化、心のあり方なども含めた漢方医学を理解して欲しいと思ったからです。

編集委員

これまでのお話をお伺いしていると村田さんが漢方に取り組まれたお陰で慶應病院を含め、現在の漢方治療があるのだと実感致しました。

ところでここからは村田さんのプライベートなことをお聞きしたいと思いますが、頂いた資料によりますと昭和 40 年の伊豆への新婚旅行に始まって、国内旅行が 54 回、海外旅行が米国留学中を含め 16 回、その内クルーズ紀行が 5 回となっています。その中で一番印象に残った旅行のお話を頂けませんでしょうか。

村田さん

それは夫婦で初めて乗船した日本郵船の飛鳥 II で、2006 年 4 月 4 日から 7 月 13 日までの 100 日間世界一周クルーズです。横浜港を出て 25 の寄港地、20 ヵ国を経て横浜港に戻るものでした。この船旅を選んだ理由は、時差の影響が少ないこと、船旅の場合は一度荷物を持ち込んでしまえば、ホテルの長期連泊と同じで、空いている時間に写真や荷物の整理が出来、寄港地でのオプショナルツアーに参加しても時間的に無理がないことでした。また日本船なので日本食が摂れることも良かったです。

⇒この船旅で良かったのは、大海原のはるか彼方に見える視界 360 度の地平線、陸地の景観、ジブラルタル砦を眼前に迂回、3 大運河（スエズ、キール、パナマ）の通峡、グリンフラッシュ、夜空に目映い南十字星を見ることが出来たのはこの船旅でしか味わえない体験でした。

（写真は 2019 年アジアグランドクルーズ（飛鳥 II）で、乗船 350 泊記念日の 1 枚です。）

編集委員

村田さんありがとうございます。100 日間のお話を全てここに書きますと何ページにもなりますのでここまでとさせてください。そして最後になりますが、インタビューは 10 月 1 日西東京三田会会員に配信させて頂く予定です。読まれた方が治療や漢方薬のことをお聞きしたいとしたらどのようにしたら宜しいのでしょうか。

村田さん

個人的には西東京では診療の場はありません。また、今診療している青梅、八王子は遠いし、しかも月に数回の診療日でしかなく、予約で殆ど一杯ですので受診は難しいと思います。ご相談を希望される方は、会員名簿の村田の Net address を介して下さるようお願い致します。

編集委員

長時間、こちらのインタビューに応じていただきありがとうございます。私どもが在籍する西東京三田会の社中に、30 余年前から漢方診療の普及に奔走し、多くの漢方オタクが信頼する村田さんを、非常勤ではありながらも、今なお現役なみの活躍ぶりに感銘を覚えた次第です。

あとがき

村田さんのインタビューは 9 月のまだ暑い中、1 時間半に及ぶものでした。このインタビューのために多くの資料をご持参いただき、医学については素人の私たちに丁寧にご説明していただきました。

また 2017 年 6 月 15 日、グルメ会主催で創立 100 周年迎える医学部の見学会がありました。勿論案内役は村田さんで、100 周年事業のこと、病院改装のこと、高度先端医療のこと等を私達に大変分かりやすくご説明下さいました。改めて、村田さんと三四会の皆様に御礼申し上げます。

文字に書き起こすとまだまだ書き足らない部分がありますが、ページ数も限られていることをご容赦下さい。

（編集委員　高橋、森）

編集後記

今号では高校野球で 107 年ぶりの優勝を果たした慶應義塾高校の勝利をたたえるとともに、塾高野球部、そして野球に繋がる義塾スピリットについて同校 OB と対談いたしました。新たな切り口の記事となりましたが、楽しんでいただけましたか？

また連載企画の会員インタビューでは産婦人科医の村田さんにお話をお聞きしました。次号以降も会員のみなさまのお話を紹介していきます。次号の会員インタビューはそこのあなたかもしれません。楽しみに待っていてください。

これから秋の行楽シーズンを迎えますが、みなさまのお出かけの思い出やアクティビティの様子などをどしどしお寄せください。次号のニュースレター31 号（令和 6 年 1 月発行予定）に掲載させていただきたいと思います。

本号から丑山佐枝子さん（H18 政メ院）に編集委員に参画していただき、7 名体制での編集・発行となりました。若手会員の目線、そして女性会員の目線から新鮮な誌面作りを目指していきたいと考えております。今後の西東京三田会ニュースレター楽しみにしてください。

編集委員

丑山佐枝子、行田健二、高橋幸三、森茂樹、（井上京子*）、大内俊、横田均

令和 5 年 10 月 1 日